

# 夢サラダ Vol.41

2008.4.1 発行

市民活動の拠点を目指しています。

「今治市民活動センター」

指定管理者:(特非)今治NPOサポートセンター

【お問合せ】TEL/FAX 25-8234

～協働を適切に進めるためのしくみとは?～

## 協働環境調査報告会 in えひめ



IIHOEが実施した、『第3回都道府県・主要市におけるNPOとの「協働環境」に関する調査』から見えてきた内容が報告されました。

※2月20日、行政職員・市民活動団体ら約70名が参加。



主催：今治NPOサポートセンター  
共催：IIHOE「人と組織と地球のための国際研究所」  
協力：日本財団CANPAN

協働の「いま」から「あした」をつくるために…。 私たちができること、しなければならないことを探りました。報告会でははじめに、愛媛県内で実施された2つの協働事例が紹介されました。



【アートマネジメント事業】 報告者：泉谷昇氏（「NPO法人アジア・フィルム・ネットワーク」事務局長）

去年11月24・25日、愛媛県美術館と協働し県美開館記念日に「職業見聞録」「ハンズマートミュージアム」を開催。

創造・表現の職に就く人たちを講師に招き「職を決めた理由」などを伺い働き方の多様性や魅力を学んだ。県民の手づくり品が販売可能な場を設け「創業・起業」の検討「いきがい・やりがい」が得られる機会を創出した。

●NPO法人アジア・フィルム・ネットワーク  
2002年設立。映画・映像作品の撮影誘致支援を行う「フィルム・コミッション」活動を展開。「世界の中心で、愛をさけぶ」「がんばっていきまっしょい(TV)」など数多くの作品に携わっている。最新支援作は「K-20怪人二十面相・伝」。



### 協働効果

行政、NPOが得意分野を活かすことで、学生や子ども達[若]年者・年齢を問わない[惹]年者・障害者など社会的[弱]者に対し、幅と奥行きのある支援が可能になった。

堀之内に賑わいが欲しい  
美術館来館者を増やしたい

◆行政

◆NPO法人

腕前や経験を活かしたい  
社会との接点を増やしたい



【自転車モデルコースづくり事業】 報告者：前田眞氏（「NPO法人まちづくり支援えひめ」代表）

愛媛県と協働し、「しまなみ自転車モデルコース」を大三島、伯方島において完成させる。現在 大島コースを作成中。

協働したことで、より地元に着目した住民参加型によるモデルコースづくりができた。これが、「住民主体の新たなまちづくり」へとつながっている。

●NPO法人まちづくり支援えひめ  
2004年設立。直接的な協働型・住民参加型のまちづくり活動を実施するとともに、講座・相談・調査研究・情報の受発信・ネットワーク構築など、まちづくり活動への支援に関する各種事業を行っている。



### 協働効果

理念を共有したことによって、サイクリングに農家民泊をプラスした新しい旅行商品の開発など、オリジナリティの高いビジネスモデル作成の広がりがうまれてきた。

■今後の課題として…

【行政】 担当者の異動などに左右されない継続的な同質事業へのサポート体制の維持

【住民】 地域エゴにならないための目配せ

【NPO法人】 活動を継続していくための財源の確保

行政にできない、「平等・中立・公平をのりこえる」ために協働がある！

### わかったこと10

- ①指針や条例の策定は進むが、プロセス開示や参画は不十分。
- ②推進部署の整備は微増。職員育成は進まず。
- ③全庁体制の整備は停滞。事例共有・活用は二極化が拡大。
- ④提案制度は、県と市・区で大きな差。
- ⑤選考基準・結果の説明責任の改善は微増。
- ⑥審査・監査への市民参加は、わずかに改善。
- ⑦事例の公開・ともに育つ機会の改善はわずか。
- ⑧評価・ふりかえりは、市・特別区ではわずか。
- ⑨ウェブサイト設置は進むが、内容・構成・頻度に大きな差。
- ⑩指定管理者制度の選定・監査には、市民の参加は低い。

報告者：川北秀人氏（「IIHOE」代表）

「協働」は

- ・自治の回復
- ・行政改革であり

●IIHOE

1994年設立。社会事業家(課題・理想に挑むNPO・企業)の支援、ビジネスと市民生活を通じた環境問題の解決などに取り組んでいる。

■協働の「いま」から「あした」をつくるために…

- ・条例・指針の策定プロセスと、審査機関への市民参加の機会を拡大する。
- ・協働事例や審査結果など、市民と共有すべき情報をより広く公開する。

本報告会では意見交換もあり、参加者それぞれの課題解決にむけて、川北氏からアドバイスがありました。

### 協働環境調査とは…

協働を実現するプロセスを18の設問で7段階指標する。対象は、都道府県、政令市、人口10万人以上の市など今治市を含め計252自治体に及んだ。

「いまばり夢学校」は、**地域**活動に取り組む大人が先生となり、小学生が身近な**地域**を舞台に体験型のプログラムを実施していく**地域**の学校です。大人と子どもが共に参加し共に成長していく“**共育の場**”となることを願って2003年に開校しました。



笑ったり、怒ったり、泣いたり、助けあったり、ケンカしたり…

いまばり夢学校2007は、今年3月をもって無事全てのプログラムを終了いたしました。感謝の気持ちをこめて、活動のもようをご報告いたします。

## 大島石・蟻・アート 大島ゆめゆめキャンプ

七色の蟻を大きな石のキャンパスに、できあがったアートは、夢の架け橋、子ども達の旅立ちの象徴だ。

と き：10月13日・14日  
ところ：できかけ教室(今治市吉海町名 1182)  
先 生：できかけ教室の皆さん  
参加者：学生スタッフ 延べ18名  
子ども 延べ71名



テーマは「虹脚埋宝伝説(虹の橋のもとには宝物が埋まっているという話)」。この虹を蟻で形づくるといのが、できかけ教室ワールドなのです。

「蟻」=「地球に住む小さな子ども達」です。

まずは、色を混ぜ合わせて七色の水生ペンキづくり。

指と割り箸を使って蟻を描く作業に、みんなみるみるうちに没頭していきま



す。それは凄い集中力で、蟻の数が増えていくに連れ作品にも迫力が増してきました。

「ここまでできたら完成」、そんな明確なゴールがない活動でしたが、子ども達の満ち足りた表情に、それぞれの達成感、ゴールを見た気がしました。

「みんなが描いた虹をいつでも見に来て欲しい」

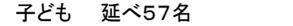
作品は、半永久的に「できかけ教室」に展示されます。数年先、みんなここに集って、描いた虹を見上げながら、夢を語り合ひましょう。



## お遍路さん ～心で学ぶ癒しの道のプレゼント～

お遍路さんとの出会い。静かに座禅を組み、瞑想したひと時。得がたい体験を通して慈悲の精神を学んだ。

と き：2007年11月10日・11日  
ところ：今治市中央公民館、高野山今治別院・南光坊  
先 生：いまばり男子厨房に入る会の皆さん  
みかんトリオの皆さん  
参加者：学生スタッフ 延べ20名  
子ども 延べ57名



1日目は、お遍路さんをもてなす「手打ちしなうどん」づくりに挑戦。



粉をふるい自分でこねるのは重労働。「食」を見直す機会となりました。

また、学生スタッフは3人の僧侶の皆さんと、お遍路さんにできることはどんなことがあるのか考えました。「お遍路さんが持っている納経帳に、しおりがあったら便利!」「小さな手提げバックが喜ばれそう!」そんな意見が出され、これらを子ども達が手づくりするというプログラムが生まれました。

2日目はお接待の日。しおりやバックをつくり、うどんとともにお遍路さんたちにプレゼントしました。

涙を流して喜んでくれるお遍路さんもいて、子ども達は心を揺さぶっていました。



「護摩祈祷」

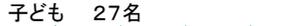
「瞑想」といった修行も体験。

普段、あまり足を運ぶことがないお寺という空間で心と向き合い、子ども達は何かを感じてくれたのではないのでしょうか。

## みんなちがってみんないい ～見て!聞いて!自閉症を体験しよう～

自閉症の子ども達との交流。「みんなちがってみんないい」を合言葉に、立派なサポーターに変身。

と き：2007年12月9日  
ところ：テクSPORT今治・その周辺  
先 生：ライフサポートこはうすの皆さん  
(NPO 法人コミュニケーションハンディキャップ研究会)  
参加者：学生スタッフ 12名  
子ども 27名



「自閉症って聞いたことがありますか?」そんな問いかけから授業は始まりました。

プログラムの企画段階から学生スタッフは、主体的に参加。擬似的な体験が難しい自閉症。見え方、聞こえ方、感じ方などを子どもたちに伝えるためには、どんな方法がいいのか…。

「自分たちが自閉症を伴う子ども達のことをまず知る必要がある」と、**自発的に関わり始める学生スタッフも出てくるなど、しっかり準備を整える姿勢には感心しました。**



授業では、目隠しをして歩く、手袋をつけて折り紙をするなど、いろんな体験を通して、自閉症を伴う人々が困っていることを学びます。

つづいて、コミュニケーションをとるためのカードなどを使って、6人の自閉症を伴うお友達のお出かけをサポート。

その中で、違いがあること、その違いを理解し、工夫すればできることが広がることを実感していました。

自閉症を伴う人たちへの支援の輪が広がることを心から願っています。



## いまばり夢学校2007を振り返って

今年度は、参画してくださった大人が日常的に取り組んでいる地域活動の意義や魅力を多くの市民に伝えることに挑戦しました。

地域活動実践者にとって、活動の担い手が育たない、活動が広がらないことが大きな課題です。

そんな課題解決の一助になればと、学生スタッフが中心となって、

- 子ども達が体験したこと
- 子ども達の支援を通して自らが感じたこと
- 大人の伝えたいことなどを盛り込んだ

**ビデオ(映像)**、**ラジオ(音声)**、**ミニコミ誌(文字)**

**ホームページ**などを作成し、地域活動の意義や魅力を社会へ伝えました。

情報が多くの市民に届き、継続的な地域活動実践につながることを期待します。

### ★紹介者派遣・販売告知★

いまばり夢学校の取り組みを出張紹介します。また、報告書や広報ビデオの販売を行っています。ぜひお問合せください。



# 指定管理者の現場拝見！



J Aおちいまばりは、今年4月から玉川町にある「鈍川せせらぎ交流館」の運営を行っています。鈍川温泉は美人湯の呼び声高く、その泉質は高い評価を集めています。温泉ブームを背景に、温泉を核としたまちづくりが全国各地で進められている中、J Aとして培ってきたノウハウを強みに、指定管理者として何ができるのか、J Aおちいまばりが新たな挑戦にいどみます。お話を、J Aおちいまばりの田坂實理事長、黒川俊継専務、そして、渡部浩忠生活福祉部長にうかがいました。



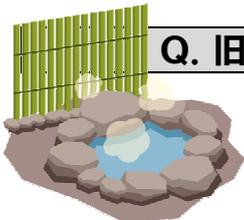
## Q. なぜ、鈍川せせらぎ交流館の運営に乗り出そうと思われたのですか？



“**営農**”という本来事業の大きな柱がありますが、近年、時代のニーズに応えるため“**福祉**”にも力を注いでいます。

J Aおちいまばりの活動は、組合員の方々にはご理解をいただいておりますが、一般には まだまだと言えます。そこで、J Aグループ(J A全国共済連)が持っていた鈍川地区の皆楽荘という保養施設を手放した経緯もあり、新たなスタイルで**地域の活性化に貢献**しようと思ひ指定管理者として名乗りをあげることにしました。

## Q. 旧玉川町 → 今治市 → 指定管理者へと移行、採算がとれる自信はありますか？



何よりも一番大切にしたいのは、鈍川せせらぎ交流館が収益をあげることもより、鈍川地域全体の活性化に寄与したいということです。地元の温泉組合にも理解を得られるよう誠意を尽くし、**共に歩いて生きたい**と思っています。

まずは、鈍川温泉がもつ魅力をさらに磨き、癒しや観光など地域一帯のレベルアップを図っていく方針です。

これまでは今治市が運営していたため、年間の**鉱泉使用料は定額制**になっていましたが、指定管理者制度が導入されてからは、**従量制**(使用量によって決まる、つまり使えば使うほど料金が増える)になりました。大人400円、子ども250円、高齢者200円という入湯料も経営的にはつらいところです。しかし、リスクを背負ったり困難であったりするほど良いアイデアがわいてくるものです。各方面との調整を図りながら、知恵と工夫で諸問題を解決していこうと意気込んでいます。

## Q. J Aおちいまばりならではの強みは？



多くの方々が、**安全・安心の食を取り入れた展開**を期待されています。

年間延べ20万弱の方々にご来場いただいておりますが、約4割は高齢者の方となっています。そういった状況をふまえながら、メインのターゲット層をどうするかなど、1年間かけて最もベストな経営形態を探っていきたくと思っています。そして、**じっくりとアイデアを練り**できること、できないことを見極めてまいります。

バイキング・いもたき・ホテル祭りなど、食や季節を組み合わせた色んなカードをもっていますが、何が出るかはお楽しみです。

J Aおちいまばりがこれまで実践してきた地域密着スタイルで、**鈍川温泉郷活性化の火付け役**となれるよう頑張っていますので、今後ともご愛顧ください。

### 【指定管理者制度ってどんな制度？】

多様化する市民ニーズにより効果的、効率的に対応するため、公の施設の管理に民間のノウハウを活用しながら、市民サービスの向上と経費の節減を図ることを目的に、平成15年6月の地方自治法改正により創設されました。

この制度が導入されたことにより、これまで公共的な団体等に限定されていた公の施設の管理運営を民間事業者も含めた幅広い団体にも委ねることができるようになりました。

今治市では、平成16年4月から指定管理者制度を導入しています。